

科目分類	一般教養科目 科学の基礎	開講時期	1年 後期
授業科目	社会学		
選択/必修	選択	単位数(時間数)	2単位 30時間
授業形態	講義		
担当教員	交野 正芳		
メールアドレス	mkatano@rm.rcn.ne.jp	オフィスアワー	講義後1時間

授業目的	<p>本学の教学体系の本旨を念頭において、看護・医療事象・現象を基点とし、その背景、あるいは文脈を構成する諸問題についての社会学の視点・方法による思考が、受講者の今後のそれぞれの現場における処し方に関わって、触媒のような働きにつながることを目指したい。</p>
授業概要	<p>看護・医療事象・現象へのアプローチにあたって看護に焦点化する。</p> <p>まず、看護へのアプローチにとって背景あるいは文脈となる看護領域を画定し、方向づける国家(「福祉国家」)のシステムの現段階のあり方を、制度・政策の位相において把握しておく。</p> <p>つぎに、それが実行される位相について、労働・職業(エキスパート)としての看護と連関する介護や諸活動が展開する場としての「社会」について捉える。</p> <p>ついでその社会の位相を構成する軸として医療機関、ケア機関、それに機能的につらなる家族・生活拠点の地域社会、が相互的に関係づけられて連関態を成し、その中心にクライアントという生命主体が、その個別性・固有性のレベルの対応が求められる位相にあることに関わる問題、くわえて看護事象・現象の外延における「公共」をめぐる政策提起に関する考察を行う。</p>
授業内容	<p>第1回(はじめに)看護と社会学というテーマ設定について</p> <p>第2回 国家・社会と看護事象・現象に関わる諸制度・諸状況(1)</p> <p>第3回 同(2)</p> <p>第4回 人口減少と高齢化が進行する状況と「福祉国家」の現状</p> <p>第5回 教育・労働・職業</p> <p>第6回 専門職(エキスパート)の組織</p> <p>第7回 看護における感情労働</p> <p>第8回 看護・介護と家族・地域社会(1)</p> <p>第9回 同(2)</p> <p>第10回 生起する問題群—犯罪につながる事態</p> <p>第11回 生命・看護と価値観(健康と健全)</p> <p>第12回 生きるという主題と諸活動</p> <p>第13回 看護事象・現象の外延と「公共」という政策提起(1)</p> <p>第14回 同(2)</p> <p>第15回 まとめ</p>
教科書 参考書等	早坂・広井・天田編著『社会学のつばさ』ミネルヴァ書房、2010年、
成績評価 基準・方法	平常点(授業の進行にあわせて分担報告50%)と定期試験(レポートによる予定50%)による。
履修要件	特になし
留意事項 その他	看護をめぐる関心を授業の進行にかかわらせてほしい(「成績評価基準」による評価に反映させたい)